

人事を尽くして天命を待つ

最近、妻が私に言いました。

「私は人生真面目に生きてきたし、曲がったことはしないようにしてきた。それなのにこの年になって山のように病気を抱えてしまった。

それに比べてあなたはそれだけ勝手気ままに生きて、やりたいことをやって、1人で自由に遊びに行っって病気の一つも無い。

これっておかしくない？私の全てのストレスの原因はあなただと思っう。そのストレスによって病気になったと思っうの。」

ごもっともだと思っう。反省。懺悔。

妻の母は89歳で非常に元気である。下手をすると妻より元気かもしれない。若い時子供を3人残して夫に交通事故で先立たれ、それから女手ひとつで子供3人育て上げたという気丈夫な人です。

その義理の母が夏の終わりに倒れて、千葉市の市民病院に救急搬送されました。心臓に水が溜まっているとの診断でした。

「まあ、歳ですから2,3日が山ですね。痛い思いをさせる

のもかわいそうですから、対症療法で点滴でもしましょう」との治療方針を説明する若い担当医。何もしないということ。明らかにどうせ歳なのだからなにをやっても無駄ですよ。自然に任せましょうとの診断でした。

妻も義理の姉も母が大好きなので「冗談じゃありません。今出来る治療はないのですか？助かる道はないのですか？水は抜けないのですか？」と言ったそうです。

「ですから今できる最善は点滴です。」

「何もしないということですか？」

「では一回だけ水を抜きましょう。後どうするかは、長男の息子さんと話をします。それでいいですね。」

義理の兄夫婦は「歳ですから自然にまかせて、延命治療はしないで下さい。先生にお任せします」という考え方です。

お医者さんを雲の上の人と考えます。

水を抜いたら母は少し元気になり、何か食べたいというところまで、回復しました。

然しながらドクターがやる気がないと、看護師まできちんとしないようで、歩けない患者のご飯を廊下に出しっぱなしだ

し、ナースコールを押してもちょっと待ってくださいばかり。来たらきたでそのくらい付き添いがしてくださいと言う始末。私が入院したころは、この病院は汚かったけれど看護師さんは素晴らしかったような気がします。

姉が毎日病院に通い、ご飯を食べさせて面倒を看たおかげで（私の作った義歯が良かったのかも）見る見るうちに会話が出来るようになりました。ただ耳がある日突然聞こえなくなりました。姉がしきり訴えたそうですが担当医は「ああそうですか歳ですからねー」と何もしなかったそうです。

姉はこれ以上ここに居ても埒があかないと考え、母が以前東京で世話になったことのある、今は横浜の病院に勤務しているらっしゃる先生に電話をかけてセカンドオピニオンとして相談に乗ってもらったそうです。

この先生を思い出したことが正に奇跡。

「僕は歳だから何もしないと言う考え方は医者としてしません。すぐにでもカルテをその病院から送ってもらってください。それを見てからどうするか決めますので、すぐ私のいる病院にきてください。相談しましょう。」との返事を頂い

たそうです。当然姉は飛んで行ったそうです。

「これなら積極的に治していきましょう。元気に歩いて退院できるようにします。」と約束してくれたそうです。

姉はあまりに嬉しくてその先生の前で号泣したそうです。

千葉から横浜までの移送は、まったく母が車椅子にも座って
いられない状況のため、私的救急車を頼んだそうであるが、
これがまた高い。まあそんなことも言ってもらえないけれど。
やはり先生がやる気のある病院は看護師さんもスタッフも
皆、親切でてきぱきと対応してくれるそうです。

市民病院で飲んでいた心臓の水を抜くための薬は、腎臓を悪
くするので、年寄りには使わないほうがいいみたいだし、
一番ひどいのは耳が聞こえなくなったのは、単に耳に水が溜
まっていただけと言うこと。

耳の水を抜いてもらったら聞こえるようになったそうだ。当
然長い時間ほっておいたので中耳炎にはなっていたとい
たそうだが。まったくありえない話。

寝たきりにさせられていたので、歩けなくなっていたが
今、歩けるようにリハビリを始めたそうである。

ただ横浜の病院なので、遠くて田舎ものには見舞いに行くのが大変かな。

母は誰も見舞いに来ないと寂しがっているようではあるみたいですが。

医者も歯医者も素晴らしい先生を探すのは難しいのかな？

実際、救急の時など診てもらえるだけでもありがたい時代ですからねー。

金子 充人